

予習課題 使用教材⑦を熟読の上、原価企画の特徴、原価企画の逆機能およびその克服方法、原価企画の海外移転に関する留意点をまとめてくること。

復習課題 「戦略的コストマネジメントはなぜ戦略的なのか」についてレポートを提出すること。

9 BSC

予習課題 使用教材⑧を熟読の上、BSC が提唱された背景、財務的指標の問題点、BSC の特徴、戦略マネジメントシステムについてまとめてくること。

復習課題 「BSC による業績連動型報酬制度の課題は何か」についてレポートを提出すること。

10 情報経済学アプローチ

予習課題 使用教材⑨を熟読の上、不確実な環境での意思決定における情報の価値、および、エイジェンシー理論の管理会計研究に対する意義についてまとめてくること。

復習課題 数学的モデルの管理会計研究に対する意義についてレポートを提出すること。

11 行動科学アプローチ

予習課題 使用教材⑩を熟読の上、予算管理、予算編成、予算の行動科学的側面についてまとめてくること。

復習課題 なし

12 コンティンジェンシー・アプローチ

予習課題 使用教材⑪を熟読の上、コンティンジェンシー理論とは何か、管理会計システムの設計にあたってなぜ組織コンテキストを考慮する必要があるのかについてまとめてくること。

復習課題 コンティンジェンシー・アプローチによる論文を 1 点とりあげ、批判的に考察した上でレポートを提出すること。

13 影響アプローチ

予習課題 使用教材⑫を熟読の上、管理会計システムの設計・運用によって組織成員の意思決定や行動にどのように影響を与えるのかについてまとめてくること。

復習課題 なし

14 管理会計システムの導入研究

予習課題 使用教材⑬を熟読の上、導入研究とは何か、管理会計システムを導入する際の促進要因・阻害要因とは何か、効果的に管理会計システムを導入するにはどうすれば良いかについてまとめてくること。

復習課題 「わが国においては、欧米企業に比べてなぜ ABC/M、BSC を導入する企業が少ないのか」についてレポートを提出すること。

15 管理会計の研究動向

予習課題 講義を踏まえて、管理会計研究の課題についてまとめてくること。

復習課題 なし。

4. 事前学修・事後学修(Preparation and review)

本講義の目的を達成するために、上記の予習課題および復習課題をこなす必要がある。以下の点に留意しながら課題に取り組むこと。

- ・わからない語彙等は必ず調べておくこと。
- ・自らの経験に照らしながらテキストの理解に努めること。
- ・興味をもった技法や理論に関しては自ら関連論文を検索すること。

5. 使用教材(Teaching materials)

①溝口一雄編著 (1987) 『管理会計の基礎』 中央経済社。

②廣本敏郎 (1993) 『米国管理会計論発達史』 森山書店。

③Shield, M. D., (1997), Research in Management Accounting by North Americans in the 1990s, *Journal of Management Accounting Research*, Vol. 9, pp. 3-61.

④Simons, R. (1995), *Lever of Control*, Boston, Mass: Harvard Business School Press. (中村元一・黒田哲彦・浦島史恵訳, 『「21 世紀経営」 4つのコントロール・レバー』, 産能大学出版部, 1998 年。)

⑤Kaplan, R. S. and R. Cooper (1998), *Cost & Effect: Using Integrated Cost System to Drive Profitability and Performance*, Boston: Harvard Business School Press. (櫻井通晴訳, 『コスト戦略と業績管理の統合システム』, ダイヤモンド社, 1998 年。)

⑥伊藤嘉博 (2001) 『環境を重視する品質コストマネジメント』 中央経済社。

⑦加登豊 (1993) 『原価企画：戦略的コストマネジメント』 日本経済新聞社。

- ⑧ Kaplan, R. S. and D. P. Norton (2001), *The Strategy-Focused Organization: How Balanced Scorecard Companies Thrive in the New Business Environment*, Boston, MA: Harvard School Press. (櫻井通晴監訳、『キャプランとノートンの戦略バランスト・スコアカード』, 東洋経済新報社, 2001年。)
- ⑨ Scapens, R. W., (1985), *Management Accounting: A Review of Recent Developments*, London: Macmillian Publishers. (石川純治監訳『管理会計の回顧と展望』白桃書房, 1992年。)
- ⑩ 小菅正伸 (1997) 『行動的予算管理論 増補第2版』中央経済社。
- ⑪ Fisher, J., (1995), Contingency-Based Research on Management Control Systems: Categorization by Level of Complexity, *Journal of Accounting Literature*, Vol.14, pp.24-53.
- ⑫ Hiromoto, T., (1991), Restoring the Relevance of Management Accounting, *Journal of Management Accounting Research*, Vol.11, pp.1-15.
- ⑬ 谷武幸編著 (2004), 『成功する管理会計システムーその導入と進化』, 中央経済社。

6. 成績評価の方法(Grading)

評価の要素	ウェイト
出席率	10 %
授業への参加度 (事例, 討論, 調査)	40 %
ホームワーク (事前課題の提出)	50 %
小テストないしクイズ	0 %
試験ないしプレゼンテーション (最終課題)	0 %

7. 成績評価の基準(Grading Criteria)

- 秀 (100～90) : 管理会計について秀でた理解力を示し、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について秀でた分析をすることができる。
- 優 (89～80) : 管理会計について優れた理解力を示し、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について優れた分析をすることができる。
- 良 (79～70) : 管理会計について基本的な理解力を示し、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について分析をすることができる。
- 可 (69～60) : 管理会計について基本的な理解力を示すものの、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について分析をすることができない。
- 不可 (59～0) : 管理会計について十分な理解力を持たず、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について分析をすることができない。

8. 履修上の注意事項(Remarks)

- 使用教材に関して、海外ジャーナル (論文) および既に絶版となっている文献に関してはコピーを配付する。それ以外の文献については購入が必要である。
- ただし、シラバスの内容は変更する場合がある。詳しくはオリエンテーションの際に説明する。